

# 薬薬連携アンケート

## ～外来がん患者治療日誌活用について～

アンケート実施期間:2016/9/30 ～ 2016/10/14

# アンケート実施について

- 対象：安芸薬剤師会会員
- 目的：2015年10月よりマツダ病院が地域保険薬局との連携の一環として、患者さんの検査値の一部及び外来癌治療患者に対する治療情報の情報提供を開始から1年が経過。情報提供について保険薬局でどのように活用されているか、また、今後更にマツダ病院との連携強化を図ることを目的として、アンケートを実施。

# 御回答頂いた先生方の背景

## ■性別（記載なし:3名）

性別	
男	22名
女	72名

**回答者数:97名**

**（回答アンケート数:94枚）**

\*1枚のアンケートに複数名分としての記載あり

\*本アンケート集計においては、回答アンケート数をサンプル数Nとする。

## ■年齢（記載なし:7名）

年齢	
20代	11名
30代	18名
40代	30名
50代	22名
60代	7名
70代	2名

## ■薬剤師経験年数（記載なし:6名）

経験年数	
1年未満	2名
1~10年	31名
11~20年	33名
21~30年	20名
31~40年	4名
41~50年	1名

# アンケート内容

- 患者からの「がん患者治療日誌」提示状況  
→Q1
- 各種シートの活用状況（活用情報源として）と活用の具体例  
→Q2 , Q3
- 「がん患者治療日誌」について困っている点  
→Q4
- マツダ病院ホームページの閲覧並びに活用状況  
→Q5
- 薬薬連携に関して  
→Q6

# アンケート集計結果

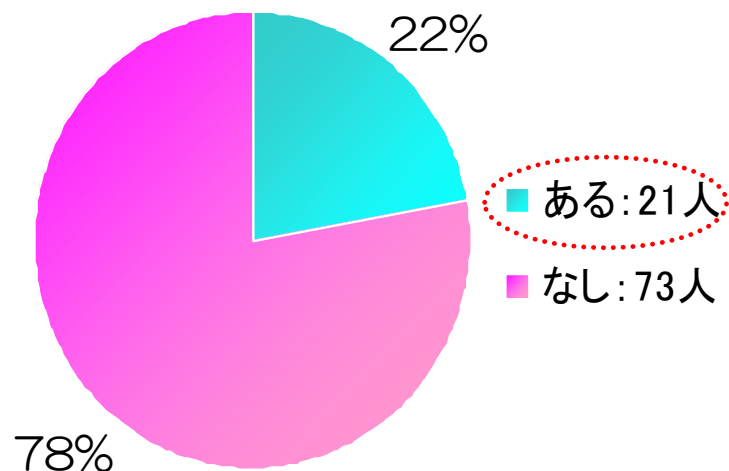
(Q1～Q6)

# 患者からの「がん患者治療日誌」提示状況

Q1. 本年9月末までに、「がん患者治療日誌」の提示を患者から受けたことがありますか？  
これまでの提示患者人数は？

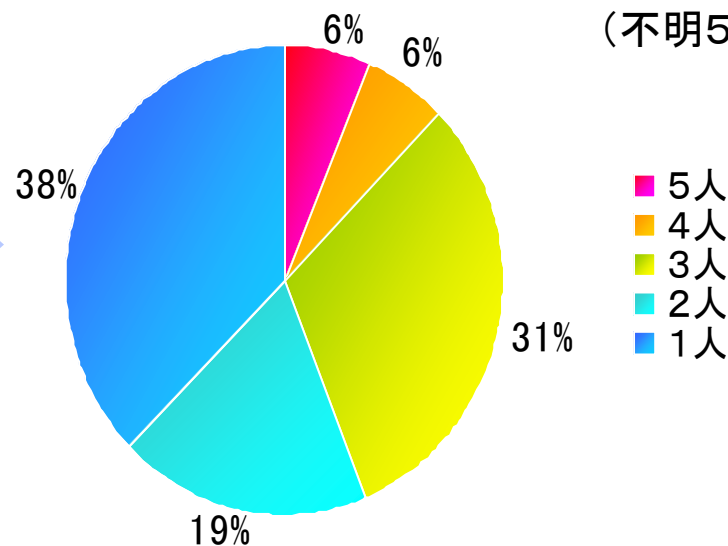
■「がん患者治療日誌」の提示

N=97



■患者人数の内訳

N=16  
(不明5)



○薬剤師97人の内、約1／4の薬剤師が、「がん患者治療日誌」の提示を経験

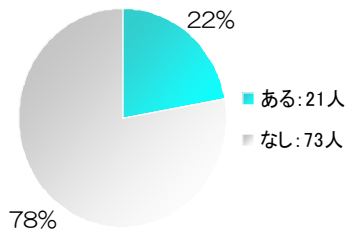
○患者の人数は1～3名が全体の8割

# 各種シートの活用状況

Q2.各種シートの活用状況について、活用した情報源は  
どれですか？

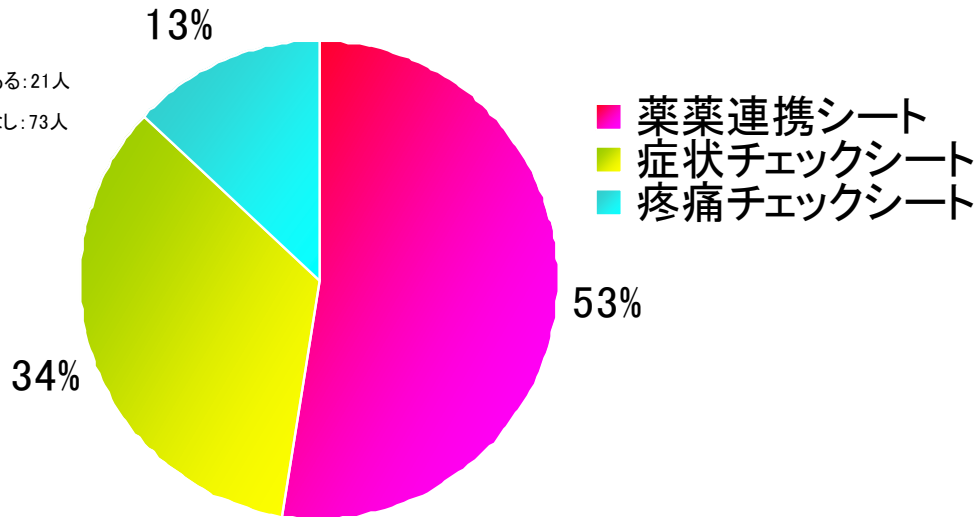
(薬薬連携シート・症状チェックシート・疼痛チェックシート 複数回答可)

■「がん患者治療日誌」の提示

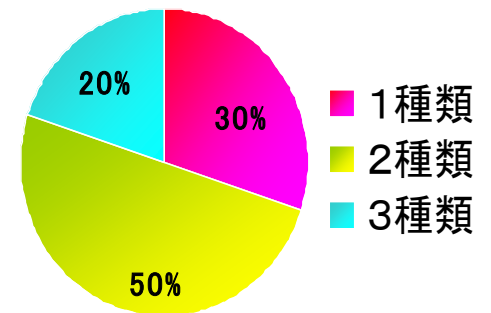


■各種シートの活用状況

N=21



■活用シートの種数



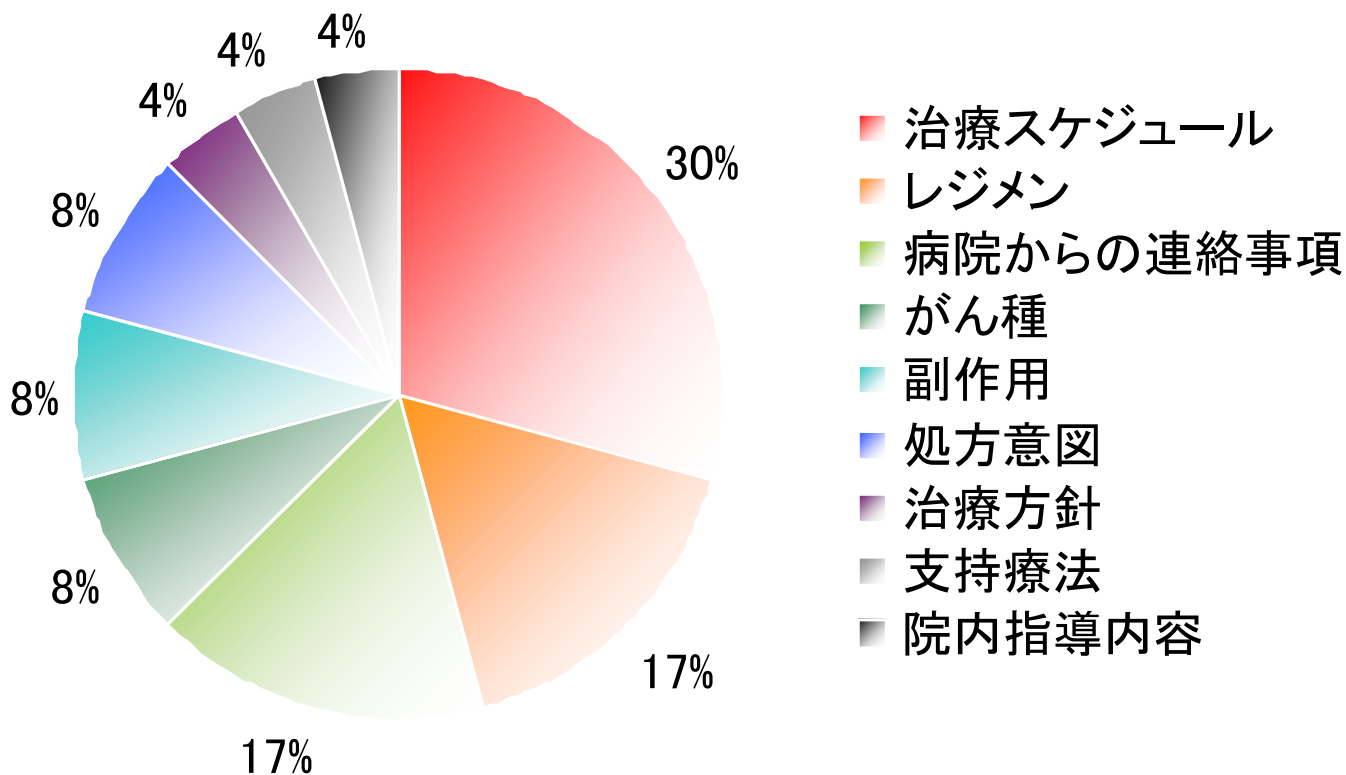
○薬薬連携シートの活用、症状チェックシートの活用率が高い

○2種類(薬薬連携・症状チェック)のシートを活用する薬剤師が1/2

# 各種シートの活用状況 【薬薬連携シート】

Q3.各種シートの活用の事例について、具体例があれば  
記述してください。（複数回答可）

■ 治療日誌の活用事例について(複数回答可)





# 各種シートの活用状況 【薬薬連携シート】

Q3.各種シートの活用の事例について、具体例があれば  
記述してください。 【活用の具体例】

- ・服薬スケジュールの確認ができた。(複数回答)
- ・疾患や治療経過を把握しながら門前の開業医の処方と併せて相互作用などチェックすることができた。
- ・癌の種類、治療方針等把握できた。(複数回答)
- ・薬剤師の記入欄にseのチェック等を記載した。
- ・院内での点滴、その他どのような薬剤を使用しているのか、副作用についてどのような説明をされているのかよく分かる。
- ・レジメンの記述。
- ・支持療法の記述や病院からの連絡事項。
- ・薬剤師からのコメントがあるので、投薬時に活かした。
- ・院内の注射薬の記録があり、患者さんの病歴の把握もできた。
- ・薬局への連絡事項を確認し患者さんにお伝えしたところ、保湿剤の残薬がないことを発見できた。
- ・薬の追加の理由があり、スムーズに会話できた。
- ・レジメンに点滴日が記載されており、それに合わせた服薬指導(吐き気の確認)の実施ができた。
- ・処方薬の意図の記載がある為、投薬時の話もスムーズで患者さんから色々と話して下さるようになった。
- ・「病院→薬局の連絡事項」で副作用に対する薬剤が記載されてあったが処方箋になかった為、確認し追加する事ができた。  
また、追加薬が何の副作用によるものなのか詳しく記載されており服用理由を知ることができた。

コメント

# 各種シートの活用状況

【症状チェックシート】

【疼痛チェックシート】

Q3.各種シートの活用の事例について、具体例があれば  
記述してください。 【活用の具体例】

## 【症状チェックシート】

- ・副作用情報の確認ができた。(複数回答)
- ・不足の外用剤を処方医にお願いすることができた。
- ・患者さん日々の状況がわかる。
- ・QOLの低下の事象に対する指導、アドバイスができた。
- ・投薬時の話がしやすくなった。
- ・食事量、排便、睡眠について直近2週間くらい確認しそれをもとに話をするといろいろと聞き出せた。
- ・頓服薬(下剤など)は症状チェックシートをもとに服用タイミングを指導しています。

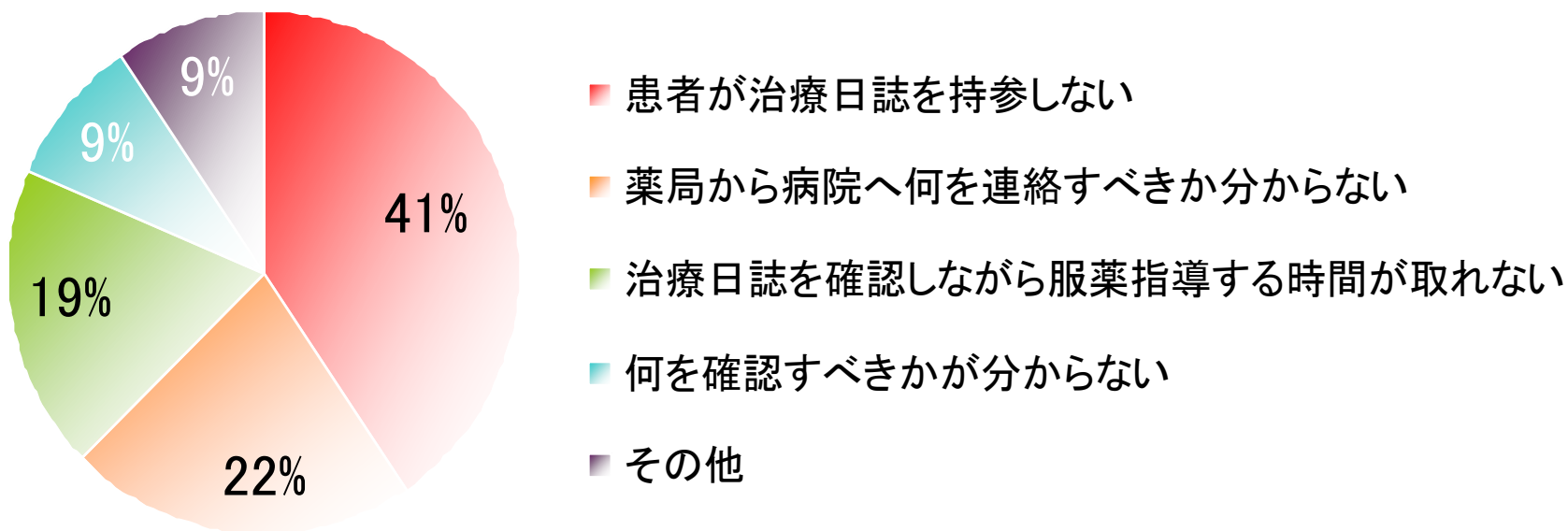
## 【疼痛チェックシート】

- ・患者さんの痛みの度合いがわかってよい。
- ・疼痛チェックを患者さんが示してくれた。
- ・シートがあることに気がつかなかった。
- ・投薬時の話がしやすくなった。

# 「がん患者治療日誌」について困っている点

Q4.治療日誌について、全体的に困っている点について  
教えてください。 (複数回答可)

■「がん患者治療日誌」について困っている点 N=19



コメント

# 「がん患者治療日誌」について困っている点

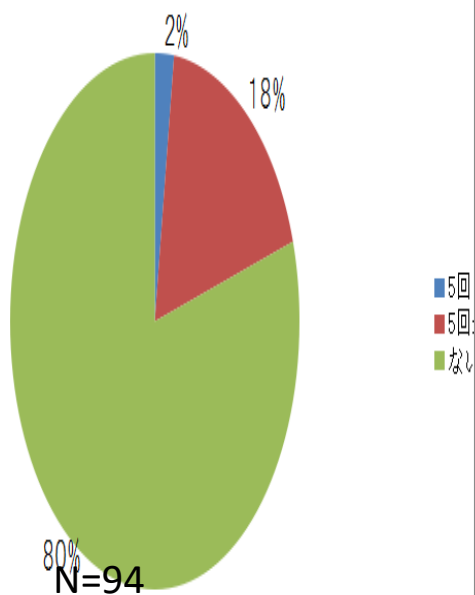
## Q4.治療日誌について、全体的に困っている点について 教えてください。 (記述)

- ・代理の方が薬局に来られる場合、治療日誌を持って来られないことが多い。  
→薬局へは代理の方が薬を取りにくるケースも多い。(がん患者の場合)
- ・症状チェックシートの記入がわからず教えて欲しいと薬局で質問あった。→当初、説明にとまどった。
- ・1度治療日誌を見たことがあるかないか。見る頻度が少ない。
- ・薬局では患者さんは待ち時間を気にされている方が多く、早く対応しないとイケない為服薬指導に時間を確保しにくい。
- ・患者さんのプライバシーを守るような投薬窓口がない。
- ・ファイルに入っている用紙が多くなると、どこから項目変わるのか分かりづらい。見出しをつけて欲しい。
- ・病院で治療日誌を見てくれることがなく、意味がないとご立腹された方がいた。治療日誌の意義を説明しましたが、それ以降、必要ないと、持参されなくなった。
- ・治療日誌をもらっていないという患者さまがいた。渡していない方もおられますか？
- ・各種シートをもらったりもらわなかったり、必ず毎回渡しているわけではないのですか？
- ・治療日誌を持たれているかはっきりしない。
- ・記載されているスケジュールと患者さんが聞いているスケジュールが異なる場合があった。
- ・薬薬連携シートに特記事項なしと記載されており、患者さんの勘違いで治療日誌を薬局に提出されていないケースがあった。

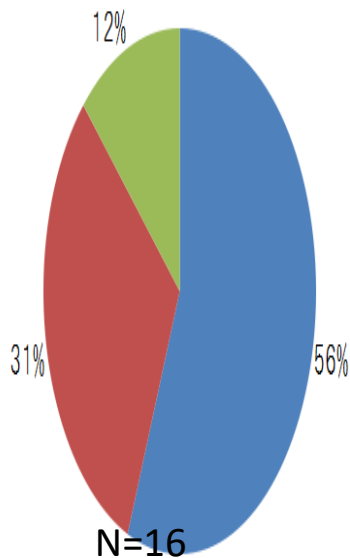
# マツダ病院ホームページの閲覧並びに活用状況

Q5.昨年10月から現在までの間で、マツダ病院ホームページ、「医療機関の方へ」⇒「保険薬局の方へ」に掲示された情報を閲覧、活用したことはありますか？

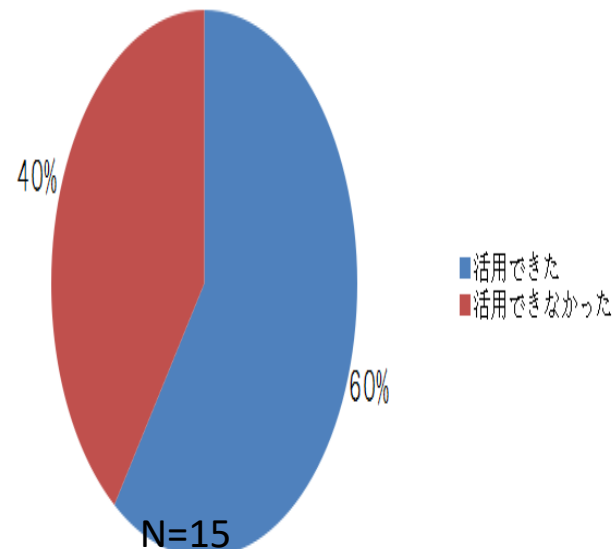
■ ホームページの閲覧状況



■ 閲覧5回未満回数内訳



■ ホームページの活用状況



# マツダ病院ホームページの閲覧並びに活用状況

Q5.昨年10月から現在までの間で、マツダ病院ホームページ、「医療機関の方へ」⇒「保険薬局の方へ」に掲示された情報を閲覧、活用したことはありますか？【活用の具体例】

- ・患者さんと治療日誌の内容について共有できる。
- ・検査値データの理解。
- ・今までの研修会のスライドの参照、再確認ができる。
- ・検査値や検査項目の確認。投薬時への検査値の確認に活かした。
- ・検査値が導入された時に確認。今回、改めて確認するとUFT単独用のシートもあることを発見。薬局で見たことがない。患者さんにきちんと渡しているのですか？
- ・検査値の見方、血液検査データのINRでワーファリンの量の増減の目安になる。
- ・薬剤別レジメンの確認ができた。

# 薬薬連携に関して

## Q6.薬薬連携に関する意見がありましたらご記入ください。

- ・検査値項目の添付があることは今までより深く処方が見られるので良い。
- ・自分から治療日誌を見せてくる患者はほぼいない。その場での確認は薬局では時間が足りないので、予め情報がもらえると助かる(FAXの時など)
- ・患者より注射薬について質問されることがある。注射薬についても勉強の必要性を感じる。薬薬連携をする上で患者さんが院内でどのような化学療法を受けているのか知る必要があると感じた。
- ・病院の薬剤部から薬局へ患者さんにどの点を聞き取りするか具体的に指示があれば薬局スタッフも意義を感じるのでは？お互いの共通認識が必要。各々が勝手に対応してもあまり成果がでないのでは？
- ・薬薬連携のがん治療勉強会でマツダ病院が行っている癌種、抗がん剤の副作用対策、支持療法の服薬指導注意点について学びたいと思う。(服薬指導の準備になる)
- ・**Ccrについて計算するために体重の記載かまたはCcr値を公表して欲しい。**(薬局では体重を聞かれることに患者さんが抵抗感あり、さらに計算する時間もとれない)(小児の投与量に確認もしやすい)
- ・処方変更時の理由を教えて欲しい。
- ・新規採用薬の勉強会をして欲しい。
- ・マツダ病院との具体的な在宅への取り組み(連携)をすすめて欲しい。
- ・認知症や独居で服薬出来ていない患者さんがおられる。そのような方でも診察時はきちんと飲んでしていると話され、いつも通り処方されている。患者さんの状態を薬局から事前にDrに伝えるシステム作り。

# 薬薬連携に関して

## Q6.薬薬連携に関する意見がありましたらご記入ください。

- ・忙しいと言いつつも患者さんが多いとついつい焦ってしまい、じっくり患者さんと向き合えていないと反省しています。これからも定期的に情報交換の出来る機会を設けて頂けると幸いです。
- ・CK値がどれくらいの場合、スタチンの副作用(横紋筋融解症)とみなされ薬が中止になるのか？
- ・お忙しい中いつも連携シートに詳しく記載してくださりありがとうございます。服薬指導に的を絞って説明できるので、大変助かっております。
- ・グループワーク形式のほうがお互いの距離も縮まり良いのではないかと？
- ・安芸市民病院との連携もして欲しい。
- ・薬薬連携には協力したいが抗がん剤の受けている患者さんのデリケートな問題でもあり人によっては深く踏み込めないこともある。
- ・疑義照会の際、薬剤部で迅速、丁寧に対応してくださり大変助かっています。
- ・講演会の要旨、質疑応答の詳細を参加出来なかった人の為のフィードバックをして欲しい。
- ・治療日誌を持っている患者さんがどなたか分かりづらいのでこちらから声をかけにくい。
- ・患者さん自身理解されていないことが多い。(検査結果がFAXIにのっていることなど..)
- ・薬薬連携に興味あるが実際携わったことがない。処方 came 際戸惑わないように勉強していきたい。(熊野地区)
- ・アンケート実施での意見の吸い上げ、有難うございます。